

② 生徒の活動状況の評価

ア 調査の趣旨

指導計画に即した着実な指導が継続的に
おこなわれていれば、生徒の活動も充実し
変容がみられるはずである。

イ 結果

10 / 18 「砂の造形」 % N = 学年12

	イ・ロ			ハ・ニ			ホ・ヘ		
	A	B	C	A	B	C	A	B	C
P (学級会)	58.3	41.0	0.0	66.7	33.3	0.0	41.7	41.7	16.6
D (行事)	58.3	41.7	0.0	50.0	41.7	8.3	41.7	58.3	0.0
S (ゆとり)	66.7	25.0	8.3	75.0	16.7	8.3	33.3	66.7	0.0

③ 変容

ア 学指、学活の実践状況 %

授業	4~6月	9~10月
ア	42.6	56.3
イ	20.4	29.9
ウ	37.0	20.8

○ 標本数が少なく問題
はあろうが、学校の計
画に即した実践の度合
いが高まりつつあると

いえる。

○ 学芸的行事や体育的行事の直前におい
て、たまたま計画の変更がみられる。

イ 生徒の活動状況 %

	「A」		「B」		「C」	
	6月21日	→10月18日	6月21日	→10月18日	6月21日	→10月18日
P	16.7	41.7	83.3	41.7	0.0	16.6
D	16.7	41.7	83.3	58.3	0.0	0.0
S	8.3	33.3	91.7	56.7	0.0	0.0

○ 6月と10月の活動内容は同一ではない
が、生徒指導という点では共通な活動パ
ターンによるものである。しかし、生徒
の興味・関心には微妙な違いがあるため、
両者を比較することに若干の問題はある
が、活動の充実傾向をみることができる。

○ 表はホ、への学年であるが、他の学年
においても同様の傾向がみられ、特にS
の段階で傾向が大であるといえる。

った。そのため、研究範囲が広く、「見とお
し」も「検証の可能性」という点からみて難
点があったように思われる。

② 教師の側に視点をおいた研究であったが、
その企図を十分表現できないくらいがあった。
しかも、小規模校のため調査標本が少なく、
調査や数字の解釈には限界があり、実態や変
容を的確にとらえるには困難が感じられ、研
究方法に問題が残った。

③ したがって、教師の実践に多少なりとも向
上がみられるとはいっても、それが研究の成
果であるとはいいい難い面がある。

(2) 今後の課題

① 学芸的行事や体育的行事の事前にとまたま
計画の変更がみられるが、その原因がどこに
あるのか。変更により実施される内容にもよ
るが、特別活動についての意識の問題として
改善が望まれる。

② 年間計画は、各部門や主題間の関連を重視
して配列され、単位時間の指導のねらいにつ
いては十分吟味されているが、活動内容、展
開については各教師の工夫に負うところが多
いため、特別活動部を中心とする事前研究を
充実する必要がある。

③ 改善策による実施期間はわずかである。今
後の継続により確かな検証への努力を払うこ
とこそ重要課題であると思われる。

参考文献

- 中学指導書 (特別活動編)
- 生徒指導の手引き (福島県教育委員会)
- 生徒指導と特別活動 (文教書院)
- 生徒指導に生かす学校行事 (文教書院)
- 学校経営 (第一法規)

「生徒指導の今日的課題

5 反省と今後の課題

(1) 研究の反省

① 研究主題の設定にあたり吟味不足の感があ